

日本短角種産肉能力（直接法）検定成績

（畜試 肉牛部）

1 背景とねらい

日本短角種の産肉能力など経済性の向上を図るため計画交配により優れた能力を備えた種雄牛を生産確保し、その効率的な利用により集団的な育種改良を推進することを目的とした肉用牛集団育種推進事業が展開されており、同事業による直接検定を実施したので改良指導のための参考に供する。

2 技術の内容

1) 本年度検定頭数は一回目20頭、二回目14頭の計34頭で、選抜頭数28頭、選抜率82.4%であった。

2) 検定成績の概要

一日当り増体量は全頭平均して一回目1.36kg、二回目1.23kgであり、崎藤号は1.73kgと過去最高であった。

3) 間接検定に係る上位4頭は、選抜指数値、血統、体型などを比較選抜し、崎藤、波宝、幸波、梅光、幸花号の予定である。

3 指導上の留意点

1) 直接検定法

期 間

一回目 単房 昭和62年11月3日～昭和63年3月22日（140日）

二回目 群房 昭和62年11月17日～昭和63年4月4日（140日）

飼 料

濃厚飼料 産肉能力検定飼料（TDN73.0%, DCP10.7%）ペレット
メタボリック体重当り6.3%制限

粗飼料 乾草飽食（TDN56.1%, DCP8.4%）

飼 養

単房 運動場に1日2時間

群房 （4～5頭1群）ブロードベントドア使用

2) 選抜指数式

$$I = 21.749 (DG) - 0.254 * (\text{皮下脂肪厚}) + 10$$

皮下脂肪厚：皮下脂肪厚8ヶ所の合計（超音波探傷機）

選抜指数式作成に用いたパラメーター

形	質	平均	標準偏差	表型・遺伝相関		遺伝率
				D	G	
D	G	1.25	0.12	-	0.0	0.5
皮下脂肪厚		82.0	8.0	0.3	-	0.5

右上：表型伝相関、左下：遺伝相関

相対希望改良量 D G 0.12 kg 皮脂厚 5.0 mm